



### 3 | 4 「すべてが新鮮」「一冬続くと大変」 母村青年団がボランティア除雪

十津川村青年県外研修団（岩井信行団長）の5人が、物産館前の公衆トイレの雪下ろしに取り組みました。

研修団は、3月2日から2泊3日で本町に滞在。最終日のこの日、台風12号災害時に町の皆さんからたくさんの方の支援を受けたことに対して若者らしい方法で恩返ししようと、早朝からおよそ1時間かけて除雪作業を行いました。

初めての除雪体験に岩井団長は「すべてが新鮮です。でも、続けていると手首にきますね。初めはすぐ終わると思っていましたけど、（なかなか終わらず）大変ですね」と話していました。

（関連記事2ページ）

### 3 | 23 サークル活動より取り見取り ゆめりあ部会 1日体験会

ゆめりあで、ゆめりあ部会1日体験会が開催され、フラダンスや卓球、書道など、11のサークルが、訪問者に活動内容を紹介しました。

ゆめりあ部会は、高齢者の趣味の集まり。おおむね60歳以上の町民が対象です。

茶道部会を訪れて茶の湯を体験した川口しげ子さんは、部会員の塚田貞さんから作法や習わしを教わって「なんて奥ゆかしいんでしょう。心が改まりますね」と話していました。





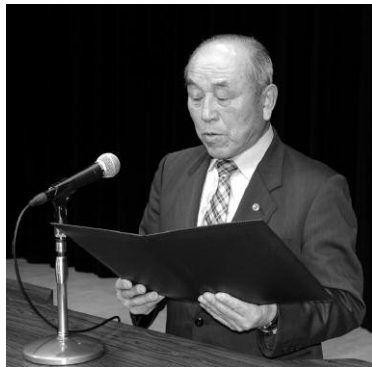
### 3 | 20 輪禍繰り返さぬ 交通安全総決起大会

新十津川町交通安全総決起大会が、ゆめりあで開かれ、町民など270人が参加して、交通事故防止を誓いました。

この大会は、2月12日に町内で発生した死亡交通事故をきっかけに、二度と交通事故で命を落とす人が現れないようにと、交通安全意識を再認識するために行われました。

参加者は「高齢者の交通事故防止」と題した講演や、夜光反射材の着用を呼びかける寸劇をとおして、自らが加害者や被害者にならないための注意点を学びました。

最後に、安全安心推進協会の寺田隆政会長が「交通事故防止の取り組みをさらに推進していくことをここに宣言します」と、交通安全宣言を読み上げました。



### 3 | 7 火の用心を願う心は変わらず

新十津川小学校で少年防火クラブの退団式が行われ、6年生4人（男子1人、女子3人）が防火クラブを卒業しました。

少年防火クラブは、火災予防や火の用心について学ぶことを目的とした課外クラブ。対象は4年生以上の小学生で、平成23年度は16人で活動してきました。

退団者を代表して、委員長の中村瑛瑠さんは「これからは4、5年生が中心になって、防火クラブの活動を続けてください」と話していました。



### 3 | 10 冬場の運動不足解消に

体育協会（高宮九州夫会長）が、徳富川河川敷で歩くスキーのつどいを開催し、7歳から82歳までの町民50人が参加しました。

コースは1周が4.5km。改善センター裏手の土手を越えた地点がスタートとゴールになっています。

参加者は、徳富川のせせらぎやネコヤナギの芽に春の訪れを感じながら、1時間半から2時間かけて歩き、心地よい汗を流しました。

